

医学生物学電子顕微鏡技術学会学術講演会
講演後抄録投稿規程 (2007年9月改定)

1. 抄録内容

学会が開催する学術講演会に発表した講演内容を、和文あるいは英文の後抄録として査読を行わずに会誌に掲載する。

2. 抄録の種類と制限枚数

講演の種類により、原稿の枚数を制限する。特別講演、シンポジウムおよびワークショップの原稿は刷り上り2頁以内、一般講演および展示発表は1頁とする。

3. 掲載の可否

筆頭演者は学術講演会会長が定めた期日までに原稿を提出しなければならない。抄録は原則として掲載する。定められた頁数を超過する抄録に対しては、編集委員会から原稿の修正を求められるが、応じない場合には掲載を拒否されることもある。

4. 著作権

掲載文の著作権は医学生物学電子顕微鏡技術学会に帰属し、著者が他に使用する場合は会の承認を必要とする。

5. 投稿原稿の部数と投稿先

印刷した文字原稿1部、図・表1部、パーソナルコンピュータで作成したドキュメントファイル (doc.) を保存してある CD あるいは MO ディスク1枚を学術講演会会長あてに送る。

6. 著者負担金

無料とする。別刷りについては25部までは無償とする。ただし、カラー印刷を希望する場合には学会が提示する印刷代および別刷り代を支払わなければならない。また、無償以上の別刷りを希望する場合にも学会が提示する別刷り代を支払わなければならない。

7. 抄録の体裁

本誌に掲載される抄録は和文あるいは英文のいずれかによって記述されなければならない。原稿作成上の取り決めを以下に記載する。

1) 和文原稿

- (1) 原稿は A4 サイズの用紙に上下左右の周囲を25 mm 空け、ダブルスペースで片面に印字する。
- (2) 第1頁には、表題、著者名、所属機関名とその所在地を和文と英文の両方で左揃えにして記述する。併せて、5個以内の英語のキーワードを付記する。
- (3) 第2頁から本文以下を記載する。本文は、1) 緒言、2) 材料および方法、3) 結果、4) 考察、5) 謝辞、6) 引用文献 (必要に応じて)、7) 図・表の説明 (別紙に記載する)、の項目順に記述する。これらの見出しは左揃えとする。また、項目間は1行ずつあける。本誌は

1頁2カラムに印刷され、1カラム幅は8.4 cm となる。刷り上りの本文総文字数は日本語全角文字で2頁は約4500文字、刷り上り1頁は約1800文字に相当する。

- (4) 1カラム幅(8.4cm)の図・表の高さ1cmは全角52文字、1カラムを超える幅(9.0から17.5cm)では2カラム扱いとなり、高さ1cmが全角104文字に相当するので、著者自身で文字数換算を行い、本文の規定総文字数内に収める。

- (5) 必要に応じて引用文献を付けることが出来る。この場合には本文中に上付きの括弧付数字で文献番号を記述する。文献番号は引用順に付け、文献リストは次のように記述する。

① 雑誌の場合

文献番号) 著者名 (二名までとし、それ以上は他と記載する)。 (年号)。 雑誌名 (略語)、 巻数：開始頁。

1) Sasaki, H., Matsui, C., et al.(2003). Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 100 : 3971.

2) 古賀博則、秋山典昭、他 (1999). 医・生電顕技術会誌. 12 : 70.

② 単行本の場合

文献番号) 著者名 (二名までとし、それ以上は他と記載する)。 (年号)。 本の名前 (編集者)、 出版社、所在地、 pp. 開始頁。

1) Sasaki, H. (2003). Methods in Molecular Medicine (Ed. Goligorsky, M.S.), Humana Press inc., Totowa NJ, pp.155.

2) 岩野 恵. (2006). クロモソーム 植物染色体研究の方法 (福井希一、向井康比己、谷口研至編)、養賢堂、東京、 pp. 111.

- (7) 単位は、 km, m, cm, mm, μ m, nm, kl, l, ml, μ l, km³, m³, cm³, mm³, μ m³, kg, g, mg, μ g, ng, pg, km², m², cm², mm², μ m², M, mM, μ M, N, %, g/l, mg/l, μ g/l, ppm, ppb, °C, xg, pH, 3H, Bq, Pa, year(s), month(s), week (s), day (s), hr, min, s を用いる。

- (8) 学術用語はできるだけ日本語を用い、形態学用語は日本解剖学会解剖学用語 (丸善：2007) に準拠する。動植物名はヒトを含めてカタカナで記述する。ラテン語のイタリック表示は斜体あるいはアンダーラインを入れて区別する。

- (9) 本文中の図・表の番号は、図1, 表1と記述する。図・表の裏には筆頭著者名、図・表番号および天地を明示し、写真には scale bar を入れる。1カラム幅の図・表の横幅は8.4 cm とし、最大幅は2カラムで17.5 cm である。縦の最大長は1頁を使用した場合22 cm とする。

- (10) 図・表について

他の論文や雑誌から引用する場合は、必ず原著者およびその出版社に転載許可を得たうえで出典を明記する。

2) 英文原稿

- (1) 原稿は A4 サイズの用紙に上下左右を25 mm 空け、半角英文字、ダブルスペースで片面に印字する。

- (2) 第1頁には、表題、著者名、所属機関名とその所在地を和文と英文の両方で左揃えにして記述する。併せて、5個以内の英語のキーワードを付記する。
- (3) 第2頁から本文を記載する。本文は、1) Introduction、2) Materials and Methods、3) Results、4) Discussion、5) Acknowledgement、6) References（必要に応じて）、7) Legends to figures（別紙に記載する）の項目順に記述する。これらの見出しは左揃えとし、また、項目間は1行ずつあける。刷り上り2頁の本文総文字数は英数半角文字で約10300文字、刷り上り1頁は約4000文字に相当する。
- (4) 1カラム幅（8.4cm）の図・表の高さ1cmは90英数半角文字、1カラムを超える幅（9.0から17.5cm）では高さ1cmが180英数半角文字に相当するので、著者自身で英字数換算を行い、本文の規定総文字数内に収める。
- (5) その他は和文原稿に準ずる。